

仕事人秘録

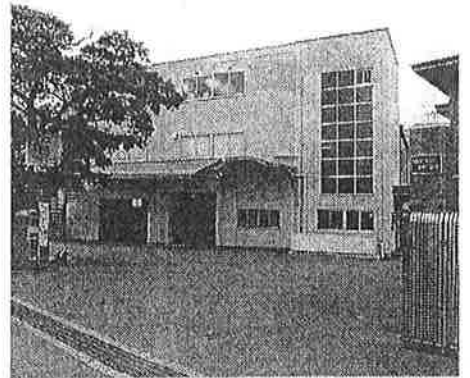
河内氏は1968年に24歳で結婚。2男1女に恵まれ、専業主婦として暮らしていた。

夫は自営業の一人息子でした。私が家業を手伝おうとすると、猛反対して「座敷に座っている」と言うようなタイプ。百貨店に1人で出かけるのも許してくれないほどでした。結婚前は厳しい父に守られた箱入り娘だったのが、「箱入り嫁」になったようなものですが、何の不満もなく、夫が買ってきてくれる本を家で読むのが喜びでした。

夫は広告代理店勤務を経て独立し、78年に父の会社に入りました。常務として活躍し、誰もがゆくゆくは後継者と思っていましたが、父と経営方針が合わず

看板商品がトップ育てる ⑤

マロニー社長 河内 幸枝氏



初出社の日は門をくぐるのにためらいもあった(マロニーの社屋)

専業主婦から後継者へ

83年に退社しました。

父も夫ともに創業者タイプで、折り合いがつかない部分があったのでしよう。私の妹たちの配偶者は仕事の都合などで会社に入ってもらえる人ではなく、父は突然、「幸枝に継がせたい」と私を後継者に指名したのです。

「女でも社長が務まるでしょうか」。父は指名の直前に顧問弁護士に相談した

き。しかも事務員として雇われるのは違います。本当にやり遂げられるのか、3人の子どもたちは受け入れてくれるのかとずいぶん悩みました。そのとき、こう考えてみました。「では10年後はどうなのか」。10年後には一番下の子は10歳から20歳に

そうです。「もちろん大丈夫なり、独り立ちする。一方、夫。これからは女性の経営者が増えますよ」と、女性であるその弁護士はおっしゃってくれた。父も引っかけが取れたような気持ちで心を決めたようです。

84年、総務部長としてマロニー(78年にヨースン食品から社名変更)に入社した。夫の家に住んでいながら父の会社に入るの、夫や夫の家族に申し訳ないという気持ちがあり、会社の近

くに移り住みました。夫と末の子が20歳になったとき、離婚しました。初出勤の日、娘時代に住み慣れた会社の敷地にもかわらさず、不安で門の中に足を踏み入れることができませんでした。もともと体が弱かったこともあり、会社という場に体がなじまなかったのです。通勤途中の電車内で気を失うこともありました。帰宅したとたん、バタンと倒れ込むような状態でした。

経営・人事

入社したころの会社の売上高は14億円台。専務に「幸枝ちゃん、14億円の壁を突破できたら会社は楽になるんだよ」としみじみと言われたのを覚えています。直近の売上高は28億円。本当に前に進んでいるのかな、と思うくらいいい歩みでしたが、着実に進んできたのかなと思います。